

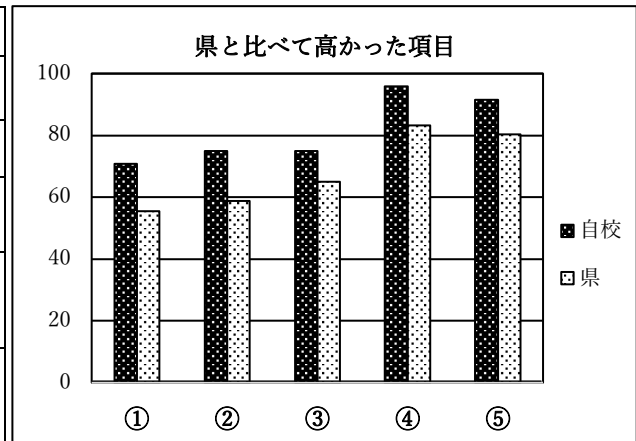
令和7年4月実施

6・9年 全国学力・学習状況調査結果及び分析、今後の取組について

◆6年 質問調査（生活や学習に関する調査）から

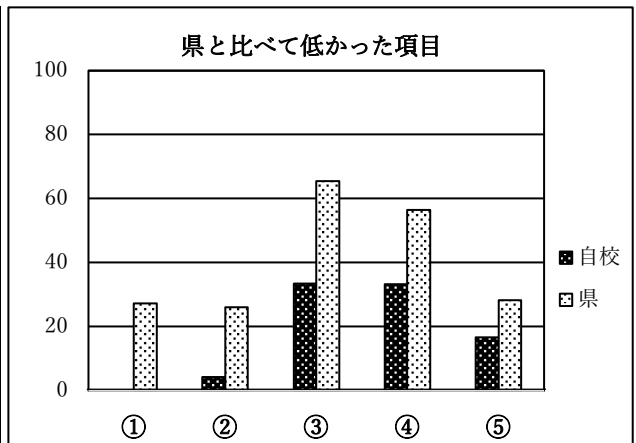
【県の割合と比べて数値が高かった項目】

	調査の項目
①	算数の勉強が好き
②	算数の勉強が得意
③	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている
④	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる
⑤	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる



【県の割合と比べて数値が低かった項目】

	調査の項目
①	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う
②	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている
③	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりしている
④	国語の勉強が好き
⑤	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上読書をしている



改善に向けた取組

①【理科や科学技術に関係する職業に就きたい児童がいない】

児童の身の回りにある現象や製品などが科学技術とどう関係しているのかを積極的に紹介する。

②【学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている児童が少ない】

家庭学習の充実を図る。児童の実態に合った課題を出し、やり直しまで徹底させる。

③【理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりしている児童が少ない】

観察や実験を重視し、児童が主体的に自然の事物・現象に関わっていく学習活動を多く設定する。

④【国語の勉強が好きな児童が少ない】

授業中、話し合う活動を多く設定し、自信をもって自分の意見を発表する機会を増やす。

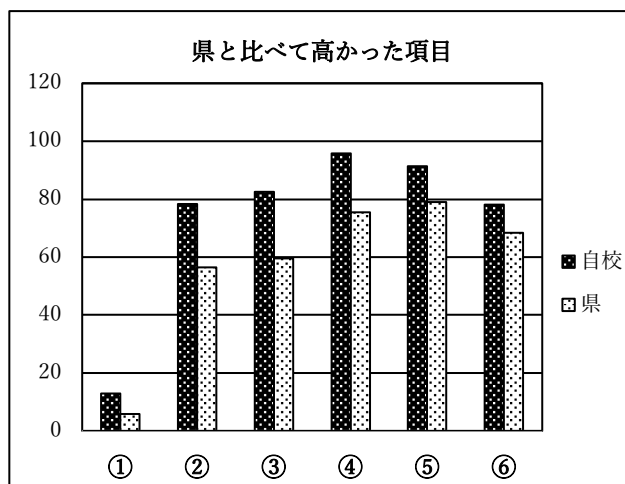
⑤【学校以外で、普段、30分以上読書している児童が少ない】

教科書関連の本を図書室から借りさせ、宿題として家で読ませる。

◆ 9年 質問調査（生活や学習に関する調査）から

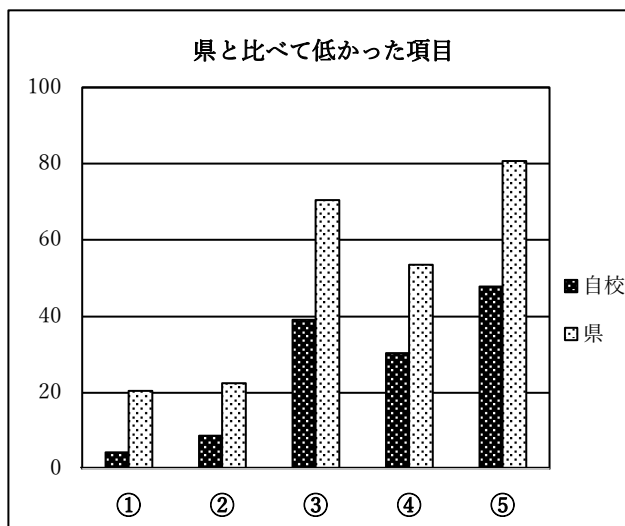
【県の割合と比べて数値が高かった項目】

	調査の項目
①	新聞を、ほぼ毎日読んだり、週に1～3回程度読んだりしている
②	国語の勉強が得意
③	国語の勉強が好き
④	国語の授業の内容がよく分かる
⑤	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
⑥	数学の授業の内容がよく分かる



【県の割合と比べて数値が低かった項目】

	調査の項目
①	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う
②	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上読書をしている
③	理科の授業の内容がよく分かる
④	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている
⑤	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている



改善に向けた取組

① 【理科や科学技術に関係する職業に就きたい生徒が少ない】

科学の知識や法則が日常生活にどのように役立っているのか、具体的な事例を挙げて説明する場を適宜設ける。

② 【学校以外で、普段、30分以上読書している生徒が少ない】

毎週、学校図書を持ち帰らせ、短い感想を書かせる。

③ 【理科の授業の内容がよく分かる生徒が少ない】

「分かる」の定義を生徒と共有する。「自分なりに理解したと思うレベルの“分かる”」なのか「習得した知識・技能を活用できるレベルの“分かる”」なのかを確認する。

④ 【理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている生徒が少ない】

「活用力」の評価規準を生徒と共有する。「できている」「できていない」の具体を示す。

⑤ 【分からないときや詳しく知りたいときに、自分で学び方を考え、工夫することができている生徒が少ない】

タブレットを持ち帰らせ、調べ学習等に活用させる。

◆6年 国語科

全体の概要

- ・6年国語科の正答率は、県平均を**大きく上回った**。
- ・県と比べて、数値が特に高かった内容は「言葉の特徴や使い方に関する事項」であった。
- ・県と比べて、数値が低かった内容はなかった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】 選択 【観 点】 思考・判断・表現 【内 容】 話すこと・聞くこと	《つまりき要因》 ・ インタビューの経験が少ない。	○ 目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する学習活動を設定する。

◆6年 算数科

全体の概要

- ・6年算数科の正答率は、県平均を**やや上回った**。
- ・県と比べて、数値が特に高かった領域は「測定」であった。
- ・県と比べて、数値が低かった領域はなかった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】 短答 【観 点】 知識・技能 【領 域】 数と計算	《つまりき要因》 ・ 例題と本題を関連付けて考えることができていない。	○ 例題で示された考え方や解き方を使って類題を解く学習活動を設定する。

◆6年 理科

全体の概要

- ・6年理科の正答率は、県平均を**やや上回った**。
- ・県と比べて、数値が特に高かった領域は「『粒子』を柱とする領域」であった。
- ・県と比べて、数値が低かった領域は「『生命』を柱とする領域」であった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】 選択 【観 点】 知識・技能 【領 域】 『生命』を柱とする領域	《つまりき要因》 ・ 既習の知識・技能が定着していない。	○ 器具の操作方法や手順をただ覚えさせるだけではなく、様々な状態を想定し、実際に操作しながら適切な方法を確認する学習活動を設定する。

◆9年 国語科

全体の概要

- ・9年国語科の正答率は、県平均と**ほぼ同じ**であった。
- ・県と比べて、数値が特に高かった内容は「書くこと」であった。
- ・県と比べて、数値が低かった内容は「話すこと・聞くこと」であった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】記述 【観 点】思考・判断・表現 【内 容】話すこと・聞くこと	≪つまずき要因≫ ・問題の主旨に沿って自分の考えを記述する経験が不足。	○ 題意を正しく理解し、条件に合った形で自分の考えを書く練習を多く設定する。

◆9年 数学科

全体の概要

- ・9年数学科の正答率は、県平均を**大きく上回った**。
- ・県と比べて、数値が特に高かった領域は「図形」であった。
- ・県と比べて、数値が低かった領域はなかった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】選択 【観 点】知識・技能 【領 域】数と式	≪つまずき要因≫ ・素数の定義についての理解が不十分。	○ 素数の定義を分かりやすく説明し、成否のポイントを押さえる。

◆9年 理科

全体の概要

- ・9年理科の正答率は、県平均を**大きく上回った**。
- ・県と比べて、数値が特に高かった領域は「『生命』を柱とする領域」であった。
- ・県と比べて、数値が低かった領域はなかった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】記述 【観 点】思考・判断・表現 【領 域】『エネルギー』を柱とする領域	≪つまずき要因≫ ・習得した知識・技能を活用できていない。	○ 観察・実験の結果を比較したり、既習の知識・技能と関連付けたりするなど、理科の「考え方」を働かせるような学習活動を設定する。



全国学調結果とその分析を受けての
今後の重点取組

1・2年グループ

- 主語・述語について、日常的に且つ全教科で意識をさせる。
- 「読書+感想」「振り返り」「家読ノート活用」等の取組を充実させる。
- 算数科内容の系統性を意識しながら学習を進め、単元ごとにレディネス調整（既習事項の復習）をしっかりと行う。
- 算数科学習に出現する多くの定義や定理（性質）をしっかりと理解させる。

3・4年グループ

- 各教科に出現する様々な言葉や定義を系統立てて教える。
- 下学年の段階から学習中の「具体物操作」を充実させる。（特に算数科学習において）
- 前学年や前単元の復習に適宜取り組ませる。

5・6・7年グループ

- 時間がかかっても「書く活動」に取り組ませることで、自分の考えを表現する力を高める。
- 情報過多の問題を用意して取り組ませることで、情報を整理する力を高める。

8・9年グループ

- 「情報の要約 + 自己表現」の力を伸ばす取組を進める。